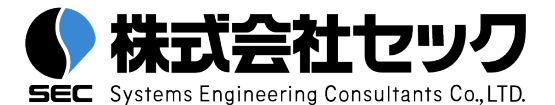


2024年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

2023年8月10日

証券コード:3741



2024年3月期 第1四半期

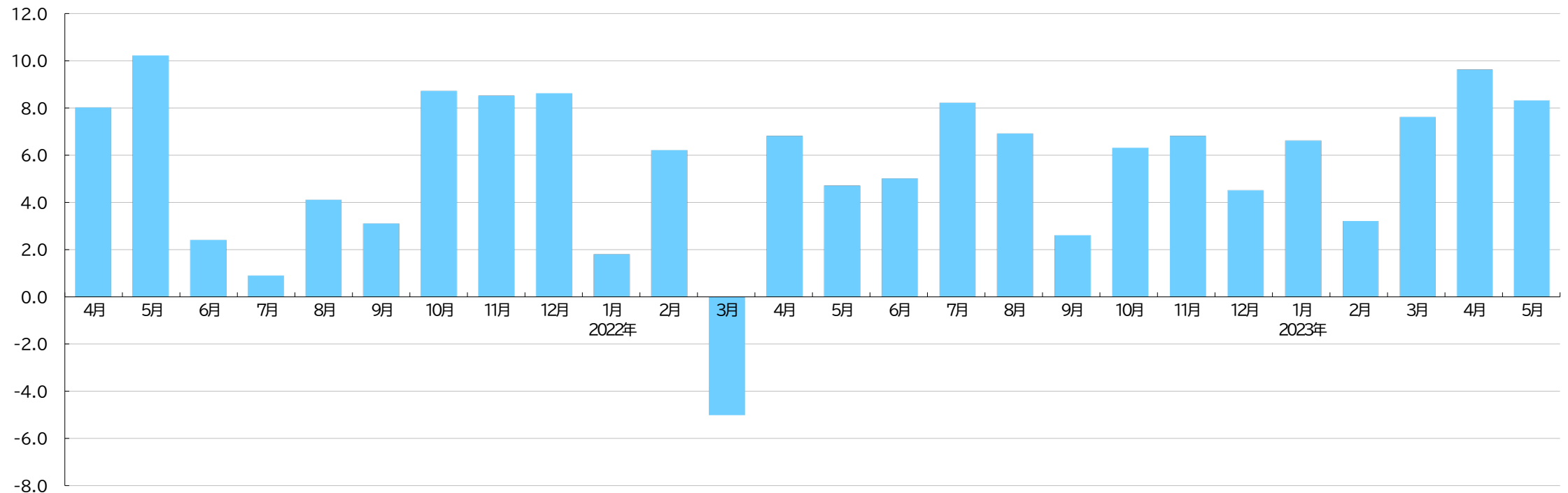
決算概要

事業環境

2024年3月期第1四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)

(単位:%)



2022年4月以降の月別売上高は前年同月比で増加しており、IT需要は全体的には概ね堅調と推察される。

2024年3月期第1四半期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前年同期比	利益率
売上高	1,826	+13.7%	
営業利益	257	+59.3%	14.1%
経常利益	277	+55.8%	15.2%
当期純利益	190	+56.1%	

受注高、受注残高ともに過去最高

	当期（百万円）	前年同期比
受注高	2,344	+67.4%
受注残高	4,280	+43.1%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

サービスロボット関連やスマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加したことに加え、官公庁向けの開発も引き続き好調であるなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前年同期を上回り過去最高となり、受注残高も過去最高となった。

第1四半期損益計算書

	2023年3月期第1四半期 (百万円)	2024年3月期第1四半期 (百万円)	前年同期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	1,606	1,826	113.7	—	—
売上原価	1,170	1,290	110.2	—	—
売上総利益	435	536	123.0	—	—
販売管理費	274	279	101.7	—	—
営業利益 (営業利益率)	161 (10.1%)	257 (14.1%)	159.3	—	—
経常利益 (経常利益率)	177 (11.1%)	277 (15.2%)	155.8	—	—
当期純利益	122	190	156.1	—	—

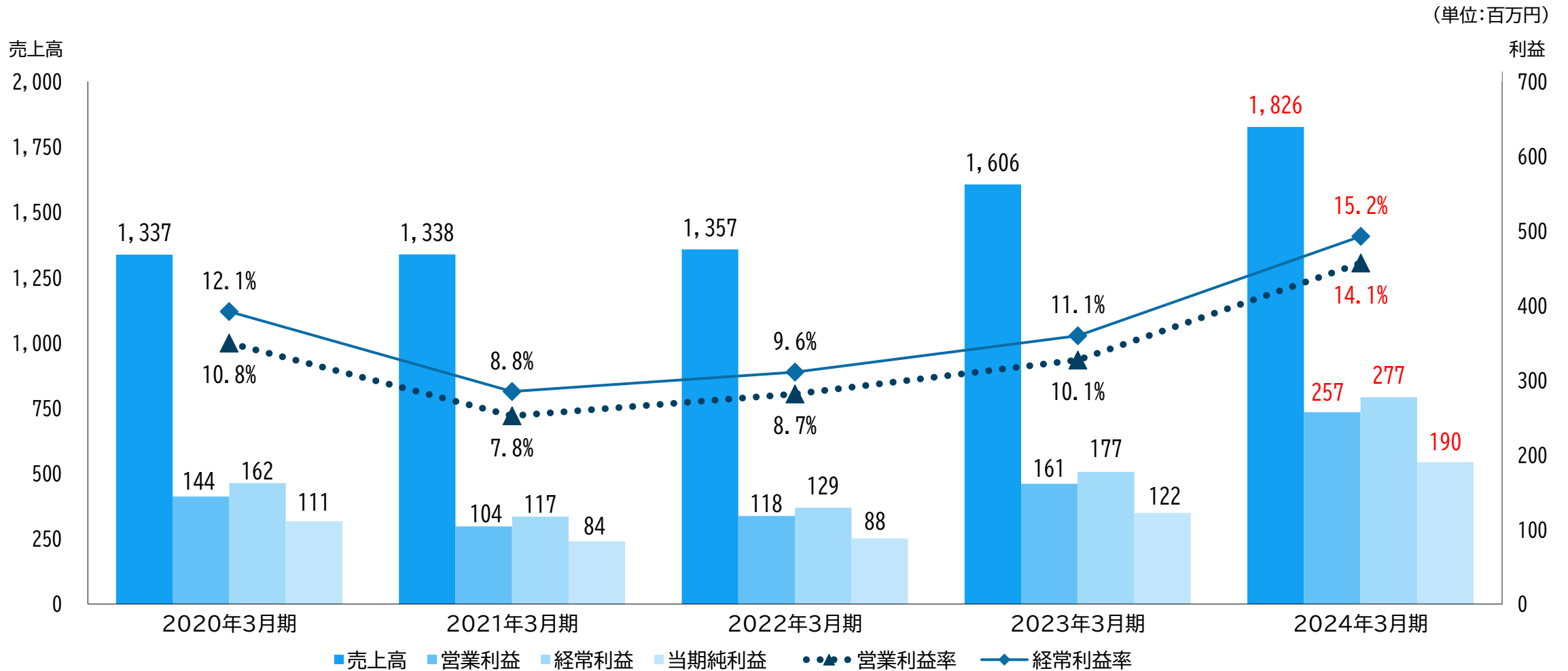
売上原価 外注費が大幅に増加（外注費 5.8億円、前年同期比18.5%増／売上高外注比率31.8%、前年同期30.5%）

販売管理費 社員数の増加、ベースアップなどにより労務費が増加、研究開発費は16百万円で、前年同期比で5.1%減

営業外損益 研究開発の補助金収入、受取出向料が大幅に増加

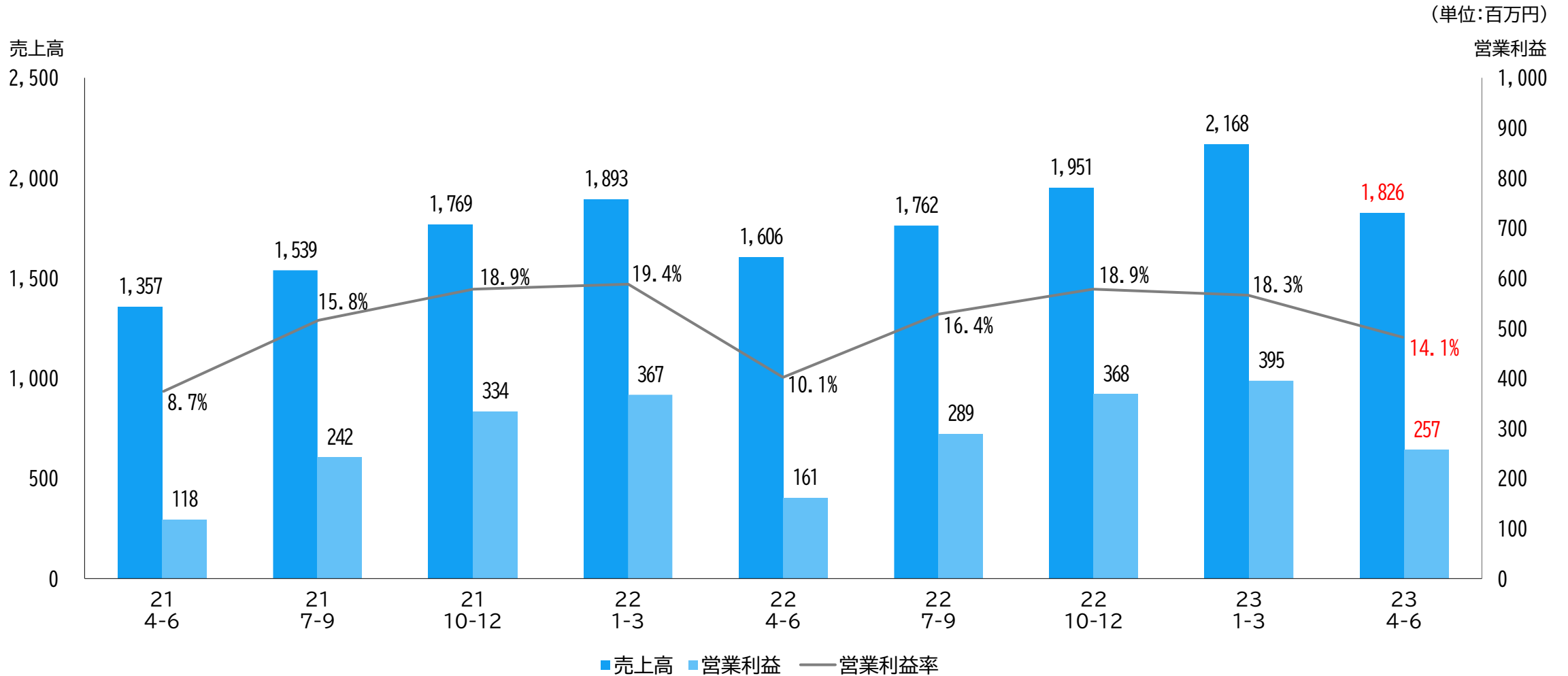
第1四半期決算業績推移(過去5年)

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで過去最高



四半期業績推移(PL)

2021年度第3四半期から、7四半期連続の増収増益

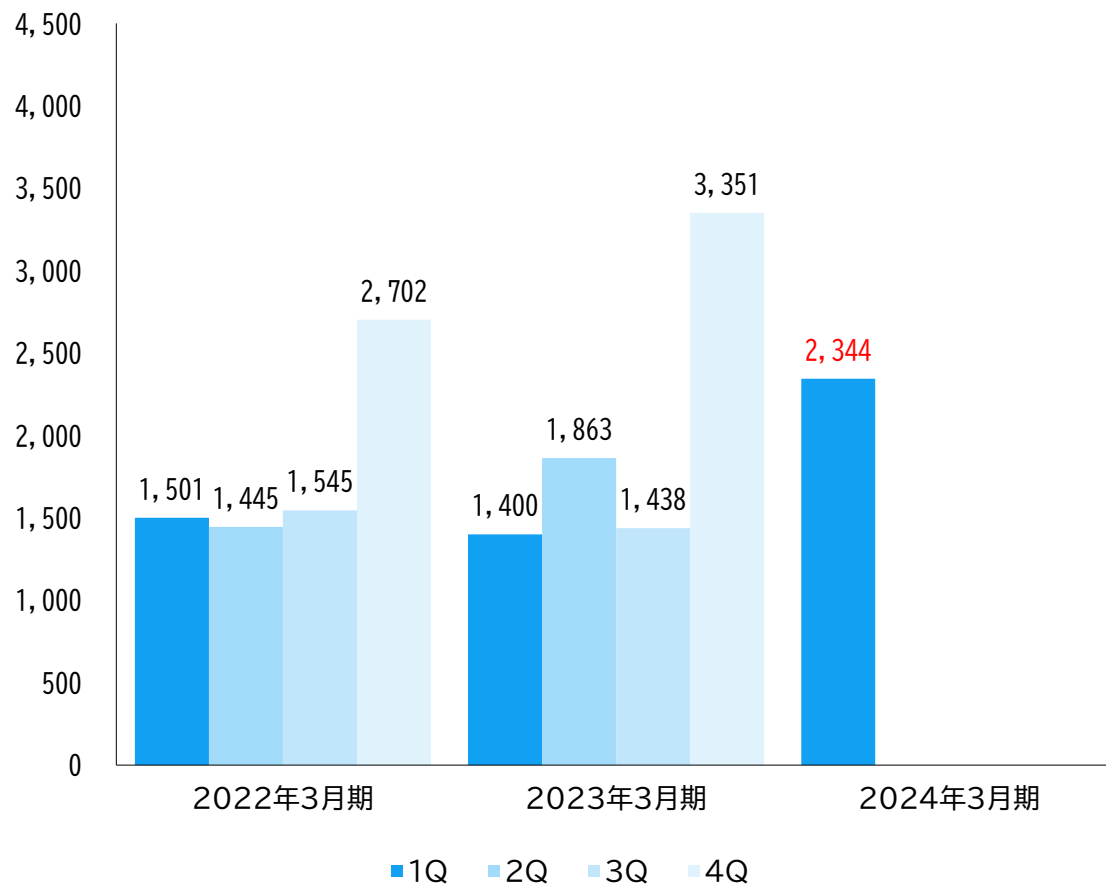


四半期業績推移(受注状況)

受注高、受注残高ともに過去最高

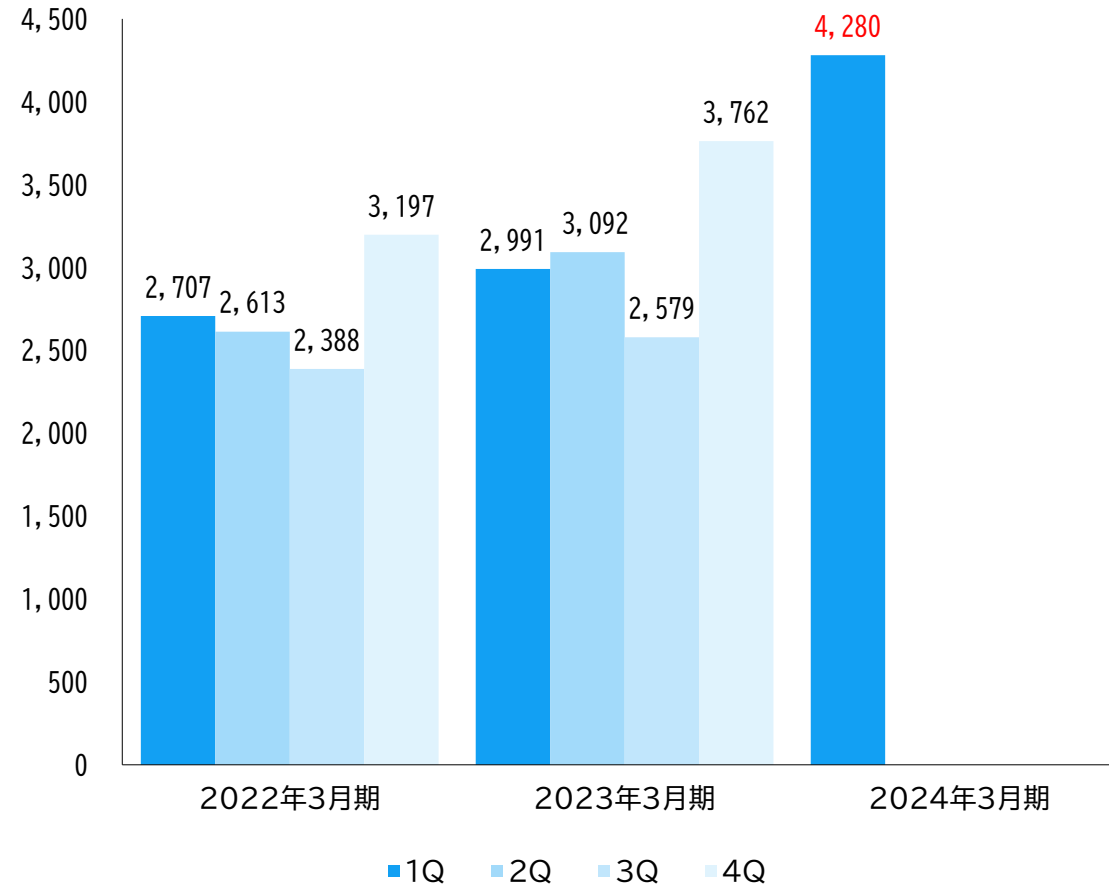
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



第1四半期BF別の状況

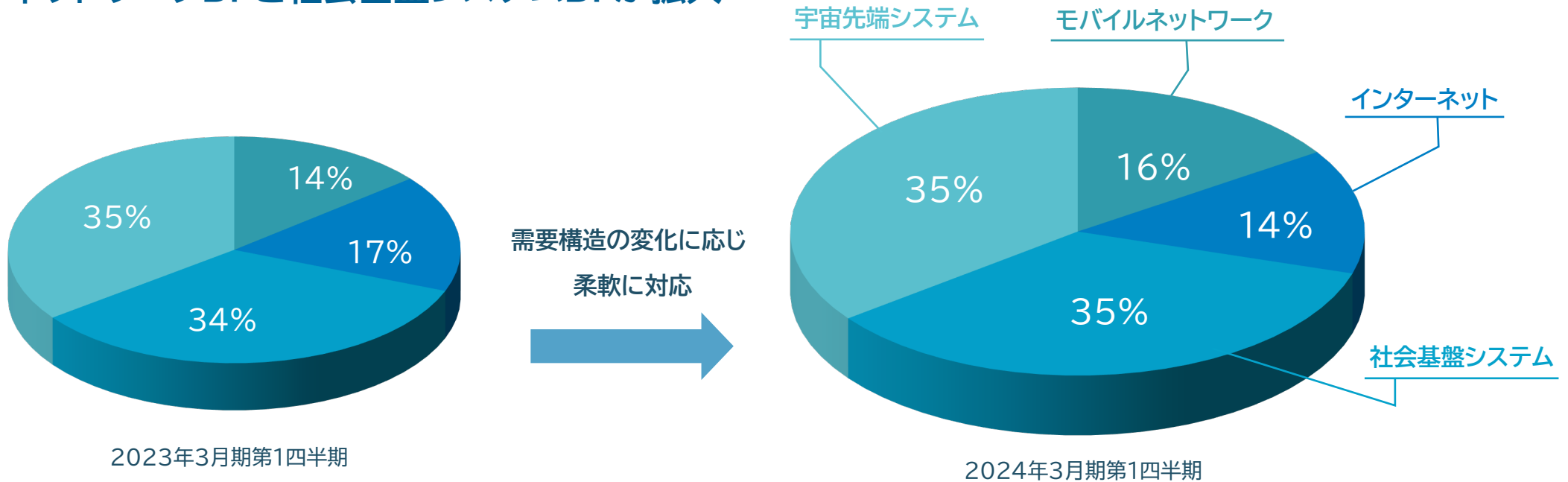
モバイルネットワークBF、社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2023年3月期第1四半期		2024年3月期第1四半期		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	228	14.2	286	15.7	125.4
インターネット	268	16.7	255	14.0	95.4
社会基盤システム	545	33.9	638	35.0	117.2
宇宙先端システム	564	35.2	645	35.3	114.3
合計	1,606	100.0	1,826	100.0	113.7

- モバイルネットワークBFは、XR(クロスリアリティ)関連やスマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加
- インターネットBFは、他のBFとの人員配分の最適化により減少
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉・健康分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調
- 宇宙先端システムBFは、サービスロボットや宇宙関連の開発が大幅に増加

第1四半期BF別売上構成比

モバイルネットワークBFと社会基盤システムBFが拡大



モバイルネットワークBF ↑

XR(クロスリアリティ)関連やスマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加

インターネットBF ↓

他のBFとの人員配分の最適化により減少

社会基盤システムBF ↑

環境分野や福祉・健康分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調

宇宙先端システムBF →

サービスロボットや宇宙関連の開発が大幅に増加し、BFの売上高は増加したが、全体構成比ではほぼ変動なし

第1四半期BF別受注状況

すべてのBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2023年3月期第1四半期		2024年3月期第1四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
モバイルネットワーク	212	230	340	159.7	339	147.2
インターネット	255	278	357	139.6	344	123.7
社会基盤システム	339	1,798	649	191.3	2,628	146.2
宇宙先端システム	592	684	997	168.4	967	141.3
合計	1,400	2,991	2,344	167.4	4,280	143.1

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは3,501百万円、前年同期(2,438百万円)と比較し43.6%の増加)

- モバイルネットワークBFは、XR(クロスリアリティ)関連やスマートコンストラクション関連の受注が大幅に増加
- インターネットBFは、民間企業向けの大型の開発やモバイル決済端末の開発の受注が増加
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉・健康分野をはじめとした官公庁向けの受注が増加
- 宇宙先端システムBFは、サービスロボットや宇宙関連の受注が増加

2024年3月期

通期業績見通し

2024年3月期業績見通し

4-6月期は好調であったが、概ね計画通りであり、業績予想は据え置く

	2023年3月期実績(百万円)	2024年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	7,488	7,750	103.5
売上原価	5,246	5,490	104.6
売上総利益	2,241	2,260	100.8
販売管理費	1,026	1,030	100.4
営業利益 (営業利益率)	1,215 (16.2%)	1,230 (15.9%)	101.2
経常利益 (経常利益率)	1,278 (17.1%)	1,290 (16.6%)	100.9
当期純利益	878	895	101.8

売上高 新型コロナウイルス感染症対策が有事から平時へと、変遷する時代にあたり、官公庁主体の社会基盤分野のビジネスを中心に推進し、前期比約4%増を見込む

売上原価 社員数増加や待遇向上による人件費の増加、外注費の増加などにより、増加を見込む

販売管理費 研究開発の増加などにより、微増を見込む

営業外損益 前期並みを見込む

2024年3月期BF別業績見通し

モバイルネットワークBF、社会基盤システムBFが増加する見込み

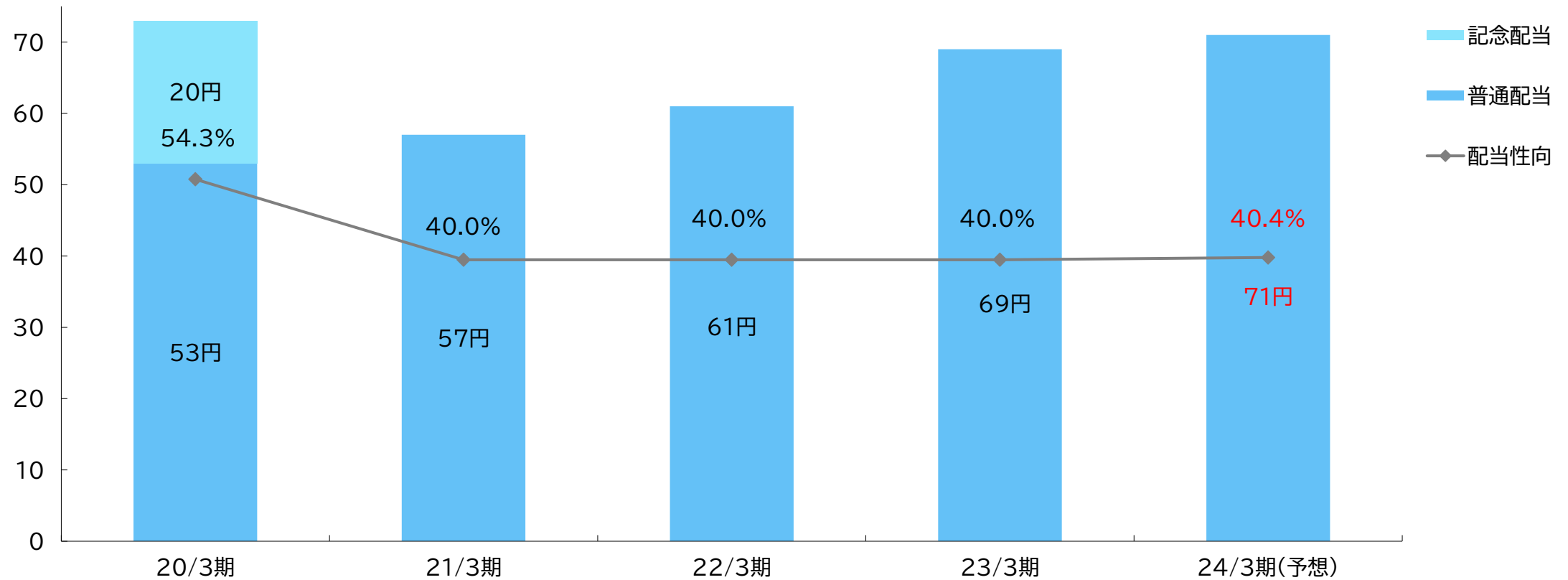
ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第1四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	XR(クロスリアリティ)関連の開発やスマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調で、増加	➡	XR関連の開発やスマートコンストラクション関連の開発が堅調で、ほぼ想定どおりの展開	➡
インターネット	非接触ICを利用した開発は継続するが、他のBFとの人員配分の最適化により、減少	➡	非接触ICを利用した開発は継続しているが、他のBFとの人員配分の最適化により減少し、ほぼ想定どおりの展開	➡
社会基盤 システム	環境分野を中心とした官公庁向けの開発が引き続き堅調で、増加	➡	環境分野を中心とした官公庁系の開発が堅調で、ほぼ想定どおりの展開	➡
宇宙先端 システム	宇宙関連の開発は堅調だが、サービスロボット関連の大型開発案件の計画変動が予想されるため、微増	➡	サービスロボットや宇宙関連の開発案件が堅調に推移し、想定を若干上回る展開	➡

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2024年3月期は1株当たり71円の配当予想とする。

(単位:円)



ご参考: ニュースリリース一覧(2023年3月~2023年7月)

2023年		
3月 6日	<u>日本オペレーションズ・リサーチ学会にて東京大学と共同で数理最適化問題に関する研究発表を実施</u>	5月16日 <u>産業技術総合研究所の自動配送ロボット向け運行管理システムの開発に協力</u>
3月 6日	<u>日本テクノセンター主催「ROSの基礎とロボットソフトウェア開発のポイント」の講師を担当</u>	6月12日 <u>フロンティアビジネス研究会 公開シンポジウム「宇宙開発の未来共創2023 民間主導の月経済圏の実現に向けて」に登壇</u>
3月15日	<u>NTTコノキューの遠隔作業支援ソリューション「NTT XR Real Support」の開発に協力</u>	6月13日 <u>「AWSセレクトティアサービスパートナー」および「AWS公共部門パートナー(PSP)」に認定</u>
3月23日	<u>大阪事業所を移転 (移転日:2023年4月1日)</u>	6月20日 <u>国際宇宙ステーション船内ドローン「Int-Ball2」のシステム統合ソフトウェアおよび地上運用支援システムを開発</u>
3月30日	<u>世田谷区での若者の社会参加支援および就業支援活動のご報告</u>	6月30日 <u>東京都教育委員会・東京スポーツ文化館主催 中高生向けAIプログラミング講座に協力</u>
5月 1日	<u>週刊現代(5月1日発売号) 特集「これから世界で勝てる日本の企業「ベスト100」」に掲載</u>	7月14日 <u>大成建設の「設備スリーブ検査のICT化アプリ」の開発に協力</u>
5月 8日	<u>量子コンピューティング EXPOにて研究成果を展示</u>	
5月 8日	<u>一般社団法人 クロスユー(宇宙ビジネス共創プラットフォーム)に加盟</u>	
5月 9日	<u>「2023年度 第1期 世田谷ITカレッジ」を開講</u>	
5月15日	<u>第4回「きぼう」ロボットプログラミングチャレンジ(Kibo-RPC)に協賛</u>	

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おさください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましてはいかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。